

# 中日新聞

発行所 中日新聞社  
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号  
〒460-8511 電話 052(201)8811

校舎の屋上から見上げた愛知県一宮市の青い空が、これまでの準備の苦勞を祝福してくれているようだった。惑星科学者を目指す高校二年の松岡友希さん（も）にとって二十一日は特別な朝になった。松岡さんが所属する一宮高地学部は、月面

## ベイリービーズ 校舎屋上で観測

の凹凸により、輝くり部では「晴れ女」の異名の縁がビーズの連なりのように見える。「ベイリービーズ」の観測に成功した。この観測で要となるビデオ撮影を担当したのが、地学部で小惑星班の班長でもある松岡さん。観測する時はいつも晴れることから、

部では「晴れ女」の異名も持つ。中学三年生のころ、理科の資料集にあった色彩豊かな太陽系に魅せられ、星好きが集まる天文部でも「随一の太陽系好き」。ここに



ほかの地学部員たちと観測の様子を携帯電話で見る松岡さん（左）21日、愛知県一宮市の一宮高で

## 一宮高生 科学者の第一歩

部員たちが高校に集まり始めたのは午前五時半ごろ。ビデオカメラ一台とデジタルカメラ三台を設置。午前七時半、金環日食が始まると、二カ月間、観測の準備を重ねてきた部員三十五人の大歓声が屋上に響いた。

地学部は、全国の高校や愛好家など七十七チームでつくる「金環日食観測チームB」に参加。データは取りまとめ役の鹿児島県の天文台に送るが、独自でも分析する。部員たちは授業の後、早速作業に取り掛かった。

「今回の測定で新しい事実を見つけた。それが科学者の第一歩になれば」。目が疲れるほど見つめ続けた陽光リングの輝きが、夢の前進を後押ししてくれる。

この記事・写真等は中日新聞社の承諾を得て転載しています。